

まつらのぶまさ ぶんかざい 松浦信正とゆかりの文化財

江戸川区谷河内一丁目にある日蓮宗の妙泉寺には、松浦河内守信正の肖像画「紙本著色松浦信正像」と、松浦信正が建てた供養塔「石造松浦信正写経塔」が伝えられています。

松浦河内守信正

松浦信正は江戸時代の谷河内村に知行地(領地)があった旗本でした。先祖は、中世武士団として九州の平戸で活躍した松浦党で、江戸時代には徳川氏により、この子孫が平戸藩など大名家と旗本家に取り立てられています。なお、江戸幕府の旗本は、一万石未満の將軍直属の家臣であり、將軍に直接お目どおり(御目見得)することができました。



紙本著色松浦信正像

江戸時代、江戸川区と葛飾区は武蔵国葛飾郡に属し、多くが天領(幕府の直轄領)でしたが、その中に松浦氏系の旗本知行地四百石が谷河内村、上篠崎村(江戸川区)、下小合村(葛飾区)にありました。

松浦信正は元禄8年(1695)に生まれ、宝永元年(1704)9歳のとき、松浦一族間の養子縁組でこれらの知行地四百石を拝領する旗本家を継ぎました。『徳川実紀』などの史料によれば、信正は賢く人を率いる才量があり、徒の頭に抜擢され、ほどなく目付、大坂町奉行へと進み、延享3年(1746)には勘定奉行に昇格し、三百石を加増されました。

この2年後、長崎奉行も兼任し、さらに五百石を加増され、混乱していた長崎貿易の改革にも着手しましたが、宝暦3年(1753)に御役御免のうえ、閉門を言い渡されます。長崎在勤中、納米について幕府へ偽りの報告をしたという理由でしたが、真相は不明です。

半年後、罪は赦されましたが、晩年は官を辞し、領地の下小合村の龍蔵寺を再興、信正院と名付けて余生を送り、明和6年(1769)5月1日、74歳で生涯を閉じました。

江戸川区郷土資料室

江戸川区内の松浦信正ゆかりの文化財

紙本著色松浦信正像：松浦信正の画像です。作者の加藤泰都(1706～1782)は号を「文麗」といい、伊予国大洲藩主加藤泰恒の六男で、旗本加藤氏を継ぎ、寛延3年(1750)に従五位下伊予守になっています。画技を狩野周信に学び、少年期の谷文晁に絵の手ほどきをした最初の師として知られています。

墨書木箱：桐箱の蓋のみ現存し、表に「藤娘 一幅」、蓋裏に「明和二乙酉年正月 松浦可謙斎納」の墨書があります。「可謙斎」は松浦信正の号ですので、おそらく信正が描いた藤娘の絵の掛軸が入っていた箱の蓋と推定されます。

石造松浦信正写経塔：宝暦9年(1759)11月建立された石造角柱型の供養塔で、松浦信正が法華経を写経し妙泉寺に奉納したことを記念した石塔です。

以上の3点は、「松浦信正関係資料」として平成24年(2012)に江戸川区指定有形文化財(歴史資料)に認定されました。

葛飾区内の松浦信正ゆかりの史料

梵鐘(松浦の鐘)：松浦信正が宝暦7年(1757)に、下小合村にあった菩提寺の龍蔵寺に奉納したものです。現在は葛飾区の水元公園の桜堤にあり、葛飾区の指定有形文化財になっています。

なお松浦信正の墓は龍蔵寺にありましたが、明治維新時に廃寺になり、宝持院(青戸八丁目)に移されています。

また瑞正寺(東金町五丁目)には、木造松浦信正坐像や信正の守本尊といわれる十一面観世音菩薩像などの遺品が、龍蔵寺から移されて遺されています。

梵鐘(松浦の鐘)



紙本著色松浦信正像(左)
と墨書木箱(右)



松浦信正写経塔



江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00～17:00)